片瀬だより

令和６年１２月２５日　発行
編集・発行
片瀬だより編集委員会
藤沢市片瀬３丁目９番６号
電話　　２９−７１７１
ＦＡＸ　２５−８９０７

公民館事業のお知らせ　申込み、詳細は広報・地域回覧・ホームページ・学校配布のチラシをご確認ください。

◎申込みは、すべて本館へ電話・来館（平日のみ午前８時３０分～午後５時まで）または電子申請で

片瀬公民館（本館）

オレの料理教室～腕まくり、オレは料理で愛される～
日時：１月２５日（土）
２月８日（土）
午前１０時から
午後１２時３０分まで
※２日間参加できる方

子育て講演会～どう守る？デジタルネイティブの子どもの脳～
日時：３月５日（水）

※申込は片瀬学園（２２−４４６４）まで

共生社会講演会～つながりひろがる、地域の「食堂」まりあ食堂の取り組み～
日時：３月１５日（土）

午後１時３０分から
午後３時３０分まで

知笑の輪倶楽部～シャンソンに導かれて　上田淳子氏～
日時：３月７日（金）
午後１時３０分から
午後３時３０分まで

楽しく子育て
① 音であそぼ！
～皆で歌ってみよう～
日時：１月１５日（水）
② 親子でリズム体操
日時：２月１９日（水）
※各回、午前１０時から
１１時３０分まで

ＳＤＧｓボードゲームで学ぼう！
日時：３月９日（日）
午前１０時から
正午まで
第１部：ボードゲーム
第２部：ミニコンサート

片瀬しおさいセンター

おもちゃの病院
日時：１月１８日（土）
２月１５日（土）
３月１５日（土）
午後１時３０分から
午後３時３０分まで

赤ちゃんとママのふれ愛タイム
日時：３月６日（木）
午前１０時から
午前１１時３０分まで
対象：２か月から１歳０か月児と母親

小さな空間アンソレイユ
日時：１月６日（月）
２月３日（月）
３月３日（月）
午前１０時から
正午まで

スマホお助け隊
日時：１月１６日（木）
２月２０日（木）
３月１３日（木）
午前１０時から
正午まで

『公民館事業のお知らせ』は、市公式 LINE からも配信中です

① 市公式 LINE に登録

藤沢市公式
LINE 登録

② 受信設定
の「片瀬地区」にに☑を入れてください。

↑片瀬公民館
ホームページ

片瀬地区ふれあいまつり

１０月１９日、２０日片瀬地区ふれあいまつりが開催されました。好天に恵まれ、多くの方々が、片瀬公民館、しおさいセンターに訪れました。スポーツレクリエーション部会、音楽芸能発表、展示部門サークルの作品、幼稚園、小・中学校の作品展示など、日頃の鍛錬の成果を拝見することが出来ました。また、会場内をめぐるスタンプラリーも大人気で、大勢の子ども達が楽しんでいました。５年ぶりに開催された古本市も終日、大賑わいでした。片瀬地区の皆さんから寄付していただいた古書が、また次の読み手にリレーされました。

かたせのうた講演会

７月２７日に行われた片瀬小学校１５０周年イベント「かたせのうた」の実行委員会のメンバーであり、記念誌の編集長の進藤宏行さんによる講演会が行われました。

１５０周年記念イベントを何故開催しようとしたのか、どんな苦労があったのか、また、制作にあたるご苦労などうかがいました。

古本市には、たくさんの書籍を寄贈いただき、ありがとうございました。売上は「片瀬地区ふれあいまつり実行委員会」へ寄付させていただきました。

片瀬の老舗を訪ねて⑭
『絵図屋(有)堀江商店』

看板

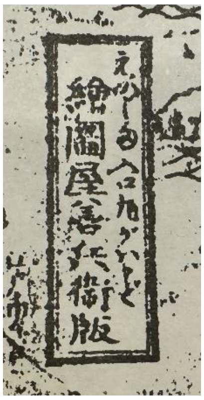
江の島、青銅の鳥居のそばにある観光物産店の「絵図屋(有)堀江商店」を訪ね、店主の堀江茂雄さんにお話を伺いました。

店主の
堀江茂雄さん

江戸時代よりこの場所で商売を営み、絵図を来島者に販売していました。時代は変わりましたが、江戸時代から現在まで同じ場所で観光客の移り変わりを見てきた大変歴史のあるお店です。

下の写真は、文化戊辰（１８０８年）に作られた「江嶋一望図」です。「えのしま入口左かはかど絵図屋善兵衛版」の文字が確認されます。

1018 年　江嶋一望図



次の写真は明治中期の頃と思われる写真です。青銅の鳥居が海と島の境に建てられていたことがよくわかります。鳥居のすぐ後ろの建物が絵図屋さんです。

江の島が年間を通じ、観光客で賑わう観光地となった理由の一つに、江戸時代から全国で宣伝活動をした「御師（おし）」と呼ばれた人々の存在がありました。その伝統は現在も受け継がれ、コロナ禍の前まで、島内のお店を営む方々が、藤沢市の観光協会、観光課と共に各地へ江の島の紹介、観光誘致活動をされていたそうです。多くの観光客が集まるために、島の人々の地道な努力があったことを教えて頂きました。

←明治中期の写真。
鳥居の後ろが絵図屋

お店に入ると所せましと並べられた商品の数に圧倒されます。懐かしい紙風船や貝細工に混ざり、現在の子どもたちに人気のキャラクター商品や珍しい貝などもあります。「ぐじゃぐじゃしているのも面白いかな」という言葉どおり、溢れるように置かれた土産物を見ているとワクワクしてきます。次々に来店してくる海外の観光客が興味深そうに商品を見ている姿が印象的でした。「江の島にいると季節の移り変わりを感じます。空は広いし、富士山も綺麗」江の島のお囃子（神囃子）でも活動中の堀江茂雄さん。江の島の次世代を継ぐ若さを感じました。

海外からの観光客の方も数多く
いらっしゃっていました。

江の島道をめぐる

『片瀬新屋敷遺跡』

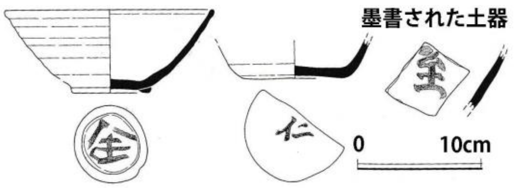
　上山本橋から境橋にかけての江の島道沿いでは、片瀬山丘陵と片瀬川（境川）にはさまれた砂丘の低地に、以前に紹介した大源太遺跡以外にも、他にも幾つかの遺跡が点在しています。それに伴って弥生時代から古墳時代、奈良時代、平安時代の土器をはじめ、様々な生活用具が見つかっています。

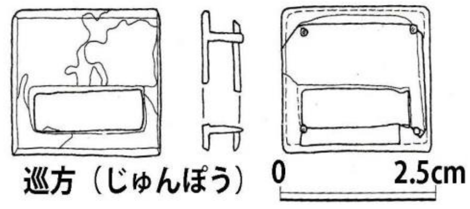
　前回紹介した馬喰橋と岩屋不動の間にある新屋敷橋の南側にも遺跡があり、それが片瀬新屋敷遺跡です。こちらはマンション建設に伴い、１９９６年８月から１０月にかけて発掘調査が行われています。

　その発掘調査では、地表面から深さ１ｍから１・５ｍのところで竪穴住居址や溝などが見つかりました。図面の１号住から７号住が竪穴住居で、全部で７軒みつかりました。形は正方形か長方形の四角い形をしていて、１号住で２・９ｍ×２・３ｍ、５号住で４・８ｍ×４・３ｍの大きさです。四角い壁際の黒く塗りつぶしたところは粘土がまとまっていたところで、煮炊きのためのカマドを作るために使用された粘土です。それぞれの竪穴住居からみつかった土器などから、５号住が１０世紀の平安時代、それ以外が８世紀の奈良時代に使われていたと考えられます。また竪穴住居以外は、奈良時代から平安時代にかけての役人が身につけていた銅製の巡方（じゅんぽう）と呼ばれる四角い帯飾りが見つかりました。これは簡単に言うと、二枚の同じ大きさの四角い銅板の片方の四隅に突起があり、もう一方の四隅に突起が合うように穴が開いていて、ベルトを表裏から挟む形で取り付けられたもので貴重な資料です。それ以外にも、文字が墨書きされた平安時代の土器片も複数見つかっています。

　奈良時代や平安時代になると人々の生活の場が大地や丘陵上だけでなく、片瀬の砂丘低地にも広がっていった様子がうかがわれます。

『神奈川県藤沢市　藤沢市内埋蔵文化財発掘調査概要集』藤沢市教育委員会２０１２年刊行を参考にしました。





巡方（じゅんぽう）

江の島は教材の宝庫

『航空写真で今昔を比較しよう』

　インターネットには、様々な地図サービスがありますが、「地理院地図」というサイトをご存じでしょうか？

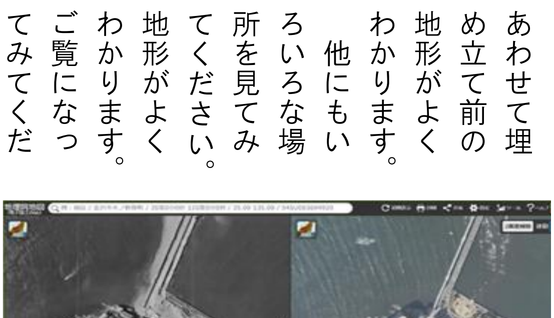
　日本において地図の作成は、国土地理院が担っています。インターネットの地図サービスも、書店で売っている道路地図も、全てはは国土地理院作成の地図が元になっています。その国土地理院が提供するインターネット上の地図サービスが「地理院地図」です。

　様々な地図や機能が搭載されていますので、良かったらじっくり使ってみてください。いろんな発見があると思います。その中でおすすめは、航空写真を使って今と昔を比較する使い方です。

　地図と同様に航空写真も閲覧できますが、最新の他に過去の写真も閲覧可能です。江の島周辺の航空写真では１９６０年代まで遡ることができます。さらに２画面機能があって、二つの写真を並べて比較することができます。二つの写真を並べてみると、東京オリンピックに向けてヨットハーバー周辺の埋め立て工事が完成間近の様子と現在の様子が比較できます。あわせて埋め立て前の地形がよくわかります。

　他にもいろいろな場所を見てみてください。地形がよくわかります。ご覧になってみてください。

（著　鹿児嶋　英克）



私の散歩道

『楽しみな散歩』

　手を伸ばせば史跡に触れる。足を延ばせば潮の香りと潮騒。多くの人に羨ましく思われる片瀬、自然環境に恵まれた街中を歩けるのは、有難いです。私の散歩は、いたって気まぐれ、何処に行くかは出たとこ勝負。気分任せの散歩ですが、すれ違う人との挨拶の中に笑顔を見出す喜びや秋空を独り占めするような羊雲を認める心地よさは、褒美のようにも思えます。「広い道より、曲がった道。平らな道より凹凸のある道」奥深い散歩へと誘う新聞記事に心が揺れます。（一）

ふるさと片瀬～今昔あれこれ～㊻

中村　喬

「暮れから正月の暮らし」

子どものころ、年末には決まって大掃除の手伝いをした。もちろん電気掃除機などはなく、ほうきやはたき、バケツや雑巾が必需品だった。障子の張替えもやった。障子の桟にはめ込まれている竹のへらを使って古い障子紙をはがすのは子どもの役目だった。あかぎれの指に水の冷たさがつらかった。二十九日を避けて餅つきも家でやった。我が家は石臼を使っていた。子どもも杵を持たせてもらった。誤って石臼のへりをたたいてしまうと木片がもちに交じってしまうこともあった。

元旦の枕元には新品の下着が用意されていた。玄関には新しい下駄が並んでいた。当時は日本全国数え年だったので、皆一歳年をとった。年末に生まれた子どもは正月には二歳になった。家族全員がそろってお祝いの膳につき新年のあいさつをしてから母の手作りのお節料理を食べた。一家で氏神様に初もうでをしたり、海岸に凧揚げに行ったりして特別の時間が過ぎていった。夜は家族みんなでトランプやかるたで遊んだ。

正月の楽しみに映画を見に行くということもあった。正月用に街角に張られた二本立てのポスターに胸を弾ませた。オデオン座や藤沢映画劇場、藤沢日活劇場などが記憶に残っている。また、洋画を専門に上映した藤沢中央。駅のすぐ近くに建てられた。昭和二十八年一月四日の日記には「午後から弟と藤沢へ映画を見に行った。映画館は満員だった。僕たちは一番後ろに立っていた。三、四人の若い男の人が夕バコをふかしていた」とある。

童謡「たきび」には「かきねのかきねのまがりかどたきびだたきびだ…」と歌われているが、垣根もたき火もしもやけおてても、今はほとんど消えてしまった。

【下社より上社へ詣で初日影】

片瀬市民図書室からのご案内

電話２８－６９３５

市内に在住、在勤、在学の方ならどなたでも、一人１０冊まで２週間借りられます。

〈開室時間〉
火～日曜日
午前１０時～午後５時

《新刊案内》

「地獄の底で見たものは」　桂　望実
「灯台を読む」　門井　慶喜
「愛しさに気づかぬうちに」　澤田　瞳子
「さよならも言えないうちに」
「やさしさを忘れぬうちに」　川口　俊和
「気の毒ばたらき　きたきた捕物帖３」　宮部　みゆき
「キャクストン私設図書館」　ジョン・コナリ
「婚活マエストロ」　宮島　未奈
「また団地のふたり」　藤野　千夜
「またうど」　村木　嵐
「駅から登る日帰り山歩き　関東周辺」　中田　真二
「１００万回死んだねこ　覚え違いタイトル集」　福井県立図書館

公民館よりお知らせ

１月１５日から、片瀬市民センターならびに片瀬しおさいセンターの駐車場が有料化されます。市民センター・公民館をご利用の方は、駐車場へ入庫後、２時間まで無料で、その後３０分ごとに１００円が加算されます。市民センター・公民館を利用しない方も駐車場利用ができるようになります。

また４月より、公民館という名称がなくなり市民センターと一体化されます。

これまでの公民館の講座や事業を継続しつつ、より地域の方々と連携し、地域の課題解決に向けた講座や事業を実施することで、地域づくりにつなげていく取組を行っていきます。

同時に、サークル等の貸室の予約がない部屋を、個人や企業などが利用できるようになります。施設を有効活用し、地域に関わる方が増えるような施設を目指します。

片瀬地区の行政区画変遷について

１８８９（明治２２）年
・片瀬村と江島村が合併し川口村となる

１９３３（昭和８）年
・川口村が町制施行し、川口町とせず鎌倉郡片瀬町となる。

１９４７（昭和２２）年
・鎌倉郡片瀬町は、藤沢市へ編入合併

『藤沢市史第６巻』参照